

会員各位

### 平成30年度熊薬東京バッテン会総会・研修認定対象研修会「大江戸教室」のご案内

平成30年5月吉日  
熊薬東京バッテン会会長 中上博秋

青葉の候、皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。  
さて、平成30年度熊薬東京バッテン会総会並びに研修認定対象研修会「大江戸教室」を下記の要領で開催いたしますので、奮ってご参加くださいますよう、よろしく願い申し上げます。

今回の研修会には、医薬品情報科学の最前線でご活躍になっておられます熊本大学薬学部・東京理科大学薬学部 客員教授（元昭和薬科大学薬学部教授） 山本美智子先生（昭和50年卒）を講師としてお招きし、『医薬品情報の意義と役割ーリスク・ベネフィットコミュニケーションの観点からー』というタイトルでご講演頂くことになっております。薬剤師の皆様、医薬品関連企業にお勤めの方々、大学、PMDAに所属されているの方々等、皆様にとってそれぞれの立場で関係の深い医薬品情報に関する最新の話題について、我が国における本分野の第一人者の立場からお話しいただけるものと期待しております。講演会終了後には懇親会にもご参加頂ける予定です。貴重な機会ですので、多くの方々にご参加戴き、意見交換と交流を図って頂ければ幸いです。

#### 記

開催日時： 2018年7月29日（日）10:00～15:00

場所： メルパルク東京3F「牡丹」（添付の地図をご参照下さい。メルパルクホール隣）  
東京都港区芝公園2-5-20 Tel: 03-3433-7212（宴会担当）

総会： 10:00～10:20（受付は9時半より）

熊薬情報： 10:20～10:40 熊本大学薬学部長 甲斐広文先生

研修会： 10:40～12:10

『医薬品情報の意義と役割ーリスク・ベネフィットコミュニケーションの観点からー』

熊本大学薬学部・東京理科大学薬学部客員教授（元昭和薬科大学薬学部教授） 山本美智子先生

懇親会： 12:30～15:00（受付は12時より）

出欠： 郵送の方には、返信用のハガキを同封しております。

6月22日（金）までにご返信ください。

参加費： 男性会員 1万円 女性会員 9千円（当日会場にてお願い致します。）

平成20年3月以降に学部をご卒業の方..... 6千円

ご家族・ご友人の方..... 6千円

研修会のみ参加の方..... 3千円

#### 日本薬剤師研修センター研修受講シール

（公財）日本薬剤師研修センターの生涯教育『研修認定薬剤師制度』の受講シール（1点シール）が必要な方には受付に用意しております。研修手帳（シールをはる手帳）が必要な方には、1冊510円で販売しております。

#### ご寄付のお願い

毎年、約500名以上の会員の方に総会案内状を送付しております。その費用（8万円以上）は総会出席者の方々の参加費の一部で賄っております。しかし、参加費からの拠出にも限度がありますし、これ以上会費を上げることも出来ません。つきましては、誠に恐縮でございますが同窓会存続のため、些少でもご寄付頂ければ幸いに存じます。

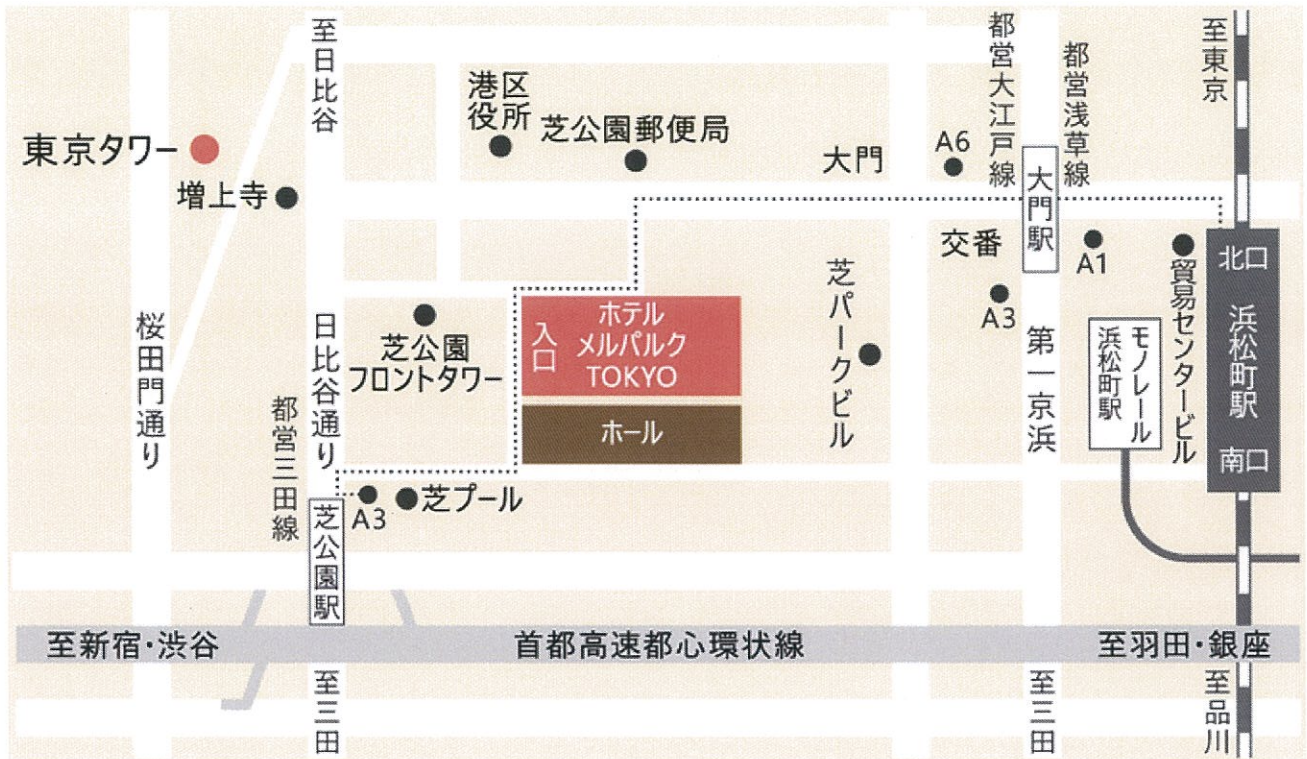
ご賛同頂ける方は、東京バッテン会の下記口座にお振り込み下さいますようお願い申し上げます。

**三井住友銀行江戸川支店 普通 2043885 堤 泰寛**（注）口座名はバッテン会会計担当役員名義

#### 参加費支払方法について

参加費につきましては、当日の受付にて受領させて戴いておりますので、ご協力頂けますようお願い申し上げます。

## 会場へのアクセス



### 会場へのアクセス

- ・ JR 浜松町駅北口徒歩8分
- ・ JR 浜松町駅南口徒歩8分
- ・ 都営三田線芝公園駅A3 徒歩2分
- ・ 都営浅草線・大江戸線大門駅 A3・A6 徒歩4分

ホテル メルパーク東京

【TEL】 03-3433-7211



### 今後のご案内について

郵送料節約の為、E-mail でののご案内、ホームページへの掲載を行っております。

可能であれば、資料添付が可能な皆様のご都合の良いメールアドレスをご連絡ください。

尚、ホームページでは種々の行事を掲載しております。

薬剤師募集の案内も掲載しております。是非ホームページをご覧いただき、活用をお願い申し上げます。

URL : <http://www.kumayaku-tb.ne.jp>

# 熊薬東京バツテン会 “大江戸教室”

— 研修認定対象研修会 —



**演題：**医薬品情報の意義と役割

— リスク・ベネフィットコミュニケーションの観点から —

**講師：**熊本大学薬学部/東京理科大学薬学部客員教授

元昭和薬科大学臨床薬学教育研究センター長、医薬品情報部門教授

山本 美智子 先生

**学歴：**1975年 熊本大学薬学部卒業

1978-1981年 ドイツ Albert-Ludwigs(フライブルグ)大学言語学部留学

2005年 東京医科歯科大学大学院課程 博士課程終了

**職歴：**一般財団法人京都予防医学センター、国立衛生試験所化学物質情報部、国立医薬品食品衛生研究所安全情報部、独立行政法人医薬品医療機器総合機構安全部、安全第一部、鈴鹿医療科学大学薬学部を経て、

2013年4月 昭和薬科大学医療薬学教育センター教授

2014年4月 昭和薬科大学医療薬学教育センター長

2016年4月 昭和薬科大学臨床薬学教育センター長・

医薬品情報部門教授

2018年3月 退職

現在、熊本大学薬学部客員教授、東京理科大学客員教授

日本医薬品情報学会代議員、研修委員会委員、

医薬品情報専門薬剤師、

レギュラトリーサイエンスエキスパート

一般社団法人ソーシャルユニバーシティ研修委員長、

一般医療法人恒潤会理事



## 主な研究分野と活動：

医薬品の安全性評価、医薬品情報リテラシー、リスクコミュニケーションの研究

- ・平成 30 年度～国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）「患者・消費者向けの医薬品等情報の提供のあり方に関する研究」班研究代表者
- ・平成 27-29 年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）「患者及び医療関係者に向けた医薬品等のリスク最小化情報の伝達方法に関する研究」班研究代表者
- ・平成 26-29 年度文科省基盤研究（C）「地域医療におけるリスク・ベネフィットコミュニケーション：薬局情報支援モデルの構築」班研究代表者
- ・平成 29-31 年度文科省基盤研究（C）「医薬品比較システム開発とそれを用いたアカデミック・ディテリング効果に関する研究」班分担研究者

## 講演要旨：

医療はサイエンスであると同時にアートでもあり、その不確実性は避けられない。情報とは何かという問いに、数学者の C. Shannon は「意思決定において不確実性（uncertainty）を減ずるものである」、また、P.F. Drucker は、「情報とはデータに意味と目的を加えたもので、データを情報に転換するには知識が必要である。」と答えている。情報により不確実性を減らした、有用な情報により、よりよい判断を行うことができる。医薬品情報学は、医薬品のトータルライフサイクルを通して、医薬品情報を正しく「集め・伝え・使う」の視点で捉え、医薬品の有効性・安全性情報の評価・解析をし、コミュニケーションを推進する実践と研究である。

臨床現場での医薬品の適正な使用に資するには、コマーシャルベースの情報や臨床経験だけでは十分とはいえ、医薬品や薬物治療に関する情報を網羅的に収集し評価する必要がある。エビデンスに基づく包括的な情報提供の重要性が認識され、そのための中立的な情報基盤構築が推進されている。その一つとして医療の質の改善に向けた薬剤師の活動として Academic Detailing 等が注目されている。国内外の医薬品情報活動に関する新たな動向を紹介したい。

また、消費者・患者にとっても、医薬品情報は、医薬品を適正に使う上で必須のものである。そのために「リスク・ベネフィットに関する情報を専門家内にとどめず一般公衆を含む利害関係者間において共有し、消費者が健康や安全性等のリスク・ベネフィットに関し独立した判断ができるように意図されたコミュニケーション」（Fischhoff B.ら）が望まれる。リスクコミュニケーションは、リスク評価やリスク管理の過程において、患者、医療従事者、行政、企業など関係者の間で、それぞれの立場から情報や意見をシェアし、相互作用的プロセスとして重要である。情報の送り手は、自分の考えが一般常識と考える傾向があり、説明不足の傾向にある、また、送り手は受け手が送り手の意図をくみとってくれると過剰に期待する傾向にあることも指摘されている。リスク管理計画がスタートして早 5 年、それに関連した医療従事者及び患者向け資材も提供されているが、まだ十分に活用されているとは言い難い。患者向けの医薬品情報は、医薬品から得られるベネフィットの最大化とリスクの最小化のために必要である。そのためには、患者が必要な情報にアクセスでき、必要な行動を想起できるような明確な説明が求められる。このような有用性評価の科学的検証の一環として、患者が関与するユーザーテストがある。医薬品に関するリスク・ベネフィットコミュニケーションの現状や今後のあり方について考えてみたい。

この案内状の挿絵は昭和 30 年卒の平野豪さんに描いて頂きました。